

2026年3月31日

研究休暇報告書

南山大学長 殿

所 属 国際教養学部

職氏名 教授 森山幹弘

受入研究機関等：南山大学研究室、ライデン大学アジア研究所、インドネシア教育大学言語文学教育学部

期間：2025年4月1日～2026年3月31日

目的：蘭領東インドにおける印刷文化：西ジャワ地方のスンダ語の出版物の研究

研究活動

当初の研究計画では3期に分けて進めていくこととしていたが、以下のように4期に分けて研究活動を行い、概ね計画通りに進めることができた。

(1) 2025年4月から6月：すでに収集した資料の整理と出版物リストの作成を行うとともに、資料の分析を行った。

(2) 6月16日～9月5日：ライデン大学アジア研究所 (Leiden Institute of Asian Studies) の訪問研究員として、ライデン大学図書館での文献調査および資料の分析、解釈と研究書の執筆を行った。

また、オランダへ渡航する途中に、ジャカルタにあるインドネシア国立図書館に立ち寄り、文献調査を実施した。

(3) 9月から2月：ライデン大学とインドネシア国立図書館の資料を整理、分析するとともに、研究書の執筆を行った。

(4) 2026年2月4日～3月31日：インドネシア国立図書館において補足的な資料調査を行うとともに、インドネシア人研究者と議論し研究内容を深めるとともに、研究書の執筆を行った。

研究成果

本研究は、インドネシアの出版文化がどのように形成されてきたかを、オランダ植民地時代に遡り研究することが目的である。この1年間において、西ジャワ地方の主要民族集団の言語であるスンダ語の出版物に焦点を当て、19世紀半ばからオランダの植民地時代が終焉を

迎える 1942 年までの定期刊行物を含む全ての出版物を対象にして研究を行った。すでに収集していた資料をベースにして、インドネシアとオランダにおいてさらなる文献調査を実施した結果、新たな出版物、特に定期刊行物の新資料を収集することができたことが大きな成果であった。さらに、過去数年にわたって網羅的に収集した資料を整理し、まとめることができたことも研究成果であった。

それらの文献資料をもとにして、研究書の執筆を進めることができた。具体的には、20 世紀初頭の蘭領東インドにおいて民族主義運動が台頭するとともに、近代化とスンダ人社会において商品経済がどのように活発化していったか、スンダ語の定期刊行物はどこで、誰によって、どのように発行されたのか、それらの定期刊行物に現れた商品の宣伝から新たな時代の到来がどのように見えてくるのか、植民地という特殊な環境において人々がどのようにリテラシーを獲得していったか、また植民者と被植民者の関係性の中で形成されたコロニアルな印刷文化 (colonial print culture) とはどのようなものだったか、等について研究を深めることができた。

この研究の進展によって、計画していた研究書の執筆をほぼ終えることができた。今後は、出版に向けて研究を進めていく予定である。

以上、研究休暇の報告をするとともに、研究を深める上で大変貴重な機会を与えられたことに感謝を述べる。